＊事務局翻訳

交通安全文化の国際的多様性

ジョージ ジアニス
アテネ国立技術大学（NTUA）教授

全世界での交通事故による死者数は年間およそ 135 万人に達し、交通関連死は死因の 8 位であり、5～29 歳の年齢層に限ると第 1 位となっています。交通事故の死亡率は国と大陸により大きく異なりヨーロッパで最も低いのに対し、アフリカでは交通安全実績が最悪となっています（WHO、2018 年）。このプレゼンテーションでは、モビリティのパターンとそれぞれの交通安全実績の決定要因である交通安全文化と道路利用者の行動の、国際的な多様性についてお話しします。

その目的のためここでは、交通安全の状況および道路利用者の行動、態度、信念により示される交通安全文化に関する、ESRA の調査第二版のデータを使用して、根底にある交通安全文化の国や地域による違いを比較しました。このデータには、ヨーロッパの 20 か国、北米の 2 か国、アフリカの 5 か国、アジア・オセアニアの 5 か国が含まれています。安全軽視行動が事故を招くことが多いというリスクが認識されている割合はヨーロッパで最も高く、比率値の範囲は疲労時運転 74%～飲酒運転 81%となっています。これに対し認識されている割合が最も低いのがアジア・オセアニアであり、比率値の範囲は薬物摂取後運転 51%～速度違反運転 57%となっています。飲酒運転、薬物の影響下での運転、運転中のメール操作、疲労時運転などに対する個人的な受容性に関する結果は、特にヨーロッパと北米で低くなっています。一方、アジア・オセアニアとアフリカでは、このような行動に対する受容性がかなり高くなっています。

興味深いのは、回答者のリスク認識が高く危険行動に対する受容性が低いにもかかわらず、どの地域でも、危険な行動をする自動車運転者の比率が未だに高いままであることです。自己申告のあった行動のうち最も多かったのは、スピード違反と運転中の携帯電話の使用です（直近の 30 日に少なくとも 1 回）。自己申告のあったスピード違反の割合は、アジア・オセアニアとアフリカに比べ、ヨーロッパと北米の方が高くなっています。自己申告のあった運転中の携帯電話の使用の割合はアフリカで多く（通話 54%、メール操作 47%）、ヨーロッパではどちらも約 1/2 になっています（通話 29%、メール操作 24%）。

したがって、交通事故と犠牲者を減らすためには、交通安全文化の役割とその改善についての理解を深め、各国がそれぞれに応じた適切な戦略、政策、プログラム、対策を採用できるようにすることがきわめて重要です。交通安全文化を発展させていくためには、地方、地域、国、および国際的な機関が、的を絞った統合的な交通安全政策とプログラムを体系的に実施することが必要です。